

日々の祈り

2021年4月12日(月)～17日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・宮崎中部教会の新年度も、イエスさまの救いを証しし、喜びに溢れて福音を宣べ伝える群れとして歩めるように。
- ・一人一人が、日々、共にいて下さるイエスさまを見つめて歩むことが出来るように。
- ・苦しみや困難の中にある人々に、イエスさまの平安と慰めが与えられるように。

12日(月)

ルカによる福音書 13章3節

言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。神さまがわたしたちに求めておられることは、悔い改めることです。神さまの御許に立ち帰る、ということです。わたしたちの滅びとは、神さまとの関係を失うことです。神さまから離れて、わたしたちは生きることが出来ません。造り主であり、命の原点である神さまとの関係にあってこそ、生きることが出来るのです。この神さまと共に生きる者となることこそ、わたしたちの救いなのです。

13日(火)

ヨブ記 42章6節

それゆえ、わたしは塵と灰の上に伏し／自分を退け、悔い改めます。

多くの苦しみと困難に見舞われたヨブという人がいました。彼の友人たちは、ヨブが罪を犯したために神さまが罰を下して苦しめておられるのだと言い、罪を告白せよと迫ります。しかし、そのような因果応報の考え方をヨブは拒みます。そしてヨブは、神さまに面と向かって叫び、問い続けていくのです。神さまは、このヨブの態度こそ正しいとされました。そしてヨブは、神さまと相対する中で、この神さまこそがすべての支配者であることを心から認め、神さまに服従するのです。ここに、本当の悔い改めがあります。またここにこそ、苦しみからのまことの救いがあるのです。

14日(水)

ペトロの手紙二 3章9節

ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。

今わたしたちが過ごしている時は、神さまが忍耐して下さっている時です。神さまは、わたしたちが一人も滅びないで、皆が悔い改めるためのことを望んで下さっているからです。神さまはわたしたちに、御子イエスさまの十字架による罪の赦しを与え、また聖霊による執り成しを与え、あらゆる手を尽くして、わたしたちが御許に帰ってくることを願い、待っておられます。わたしたちはこれ以上、神さまの忍耐を試すことなく、御許に立ち帰るべきではないでしょうか。

15日(木)

詩編 119編 57~59節

主はわたしに与えられた分です。御言葉を守ることを約束します。御顔が和らぐのを心を尽くして願い求めます。仰せのとおり、わたしを憐れんでください。わたしは自分の道を思い返し／立ち帰ってあなたの定めに従って歩みます。わたしはためらうことなく／速やかにあなたの戒めを守ります。

驚くべきことです。主なる神さまが、わたしに与えられた「分」、つまり、わたしが受け継ぐ財産であるとは。この方との交わりに生きることが、この方の恵みに与えることが、わたしに分け与えられるべきものとして用意されています。そうであるなら、わたしたちは足を神さまに向け、両手を空けて神さまに差し出し、心を神さまに開いて、それを受け取る者になりたいのです。

16日(金)

イザヤ書 30章18節

それゆえ、主は恵みを与えようとして／あなたたちを待ち／それゆえ、主は憐れみを与えようとして／立ち上がられる。まことに、主は正義の神。なんと幸いなことか、すべて主を待ち望ぶ人は。

次の主日礼拝の御言葉です。神さまは、忍耐強くわたしたちを待っておられます。神さまの方には、いつでもわたしたちに恵みと憐れみを与える用意があります。わたしたちはいつまでお待たせするのでしょうか。なぜそっぽを向き、差し伸べられている手を振り払おうとするのでしょうか。主はわたしたちを待っておられます。

17日(土)

ルカによる福音書 13章8~9節

園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』

明日の主日礼拝の御言葉です。主人は実のならないいちじくの木を切り倒そうとしています。しかし園丁が執り成し、世話をし、実がなるかも知れないから、待つて欲しいというのです。わたしたちもまた、イエスさまに執り成され、命を注がれ、手を尽くされて、今や実を結ぶことが出来る者とされています。神さまは、その時をずっと待つて下さっています。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』